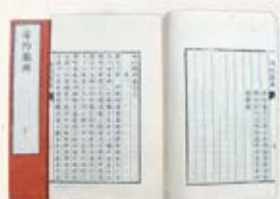


# ふるさと歴史アラカルト

## 岩国と『花燃ゆ』ゆかりの人物4 梶取素彦（小田村文助）2 (1829～1912年)

元治元（1864）年7月、禁門の変で御所へ発砲したとして、長州藩は朝廷に背く敵とみなされ、第一次長州出兵が始まります。この長州藩最大の危機は、岩国藩主吉川経幹の活躍などにより戦争が回避されますが、この間、長州藩では江戸幕府へ謝罪することを徹底する動きとなりました。これに反対するとみられていた小田村文助は、9月に藩命により素太郎と改名し、役職を辞めさせられた後、野山獄（萩市）に入れられます。しかし、藩の方針に反発した高杉晋作が12月に挙兵し、内戦に勝利したため、翌年、出されました。慶応元（1865）年4月、高杉の挙兵以降の長州藩の不穏な動きを感じた幕府は、長州再征を決定しました。これに対し、長州藩は11月から使者の宍戸備後助に小田村を同行させて広島へ派遣し、幕府と交渉させます。『防長回天史』によると、慶応2年4月6日、宍戸は広島での交渉を中断して高森

（周東町）に入り、翌日に小田村も高森に入っています。約2週間、高森で広島藩と交渉して再び広島へ行きますが、5月に身柄が拘束され、6月に第二次長州出兵（四境戦争）が開戦した後、釈放されました。釈放後も高森を何度か訪れ、広島藩との交渉を行っています。また岩国藩が戦った芸州口では、8月9日に両軍が兵を引き上げます（9月4日完全終結）が、『撫育方役場日記』によると、9日に小田村は釜ヶ原（美和町）の庄屋の家に一泊しています。慶応3年、梶取素彦と改名しました。明治9（1876）年、梶取は初代群馬県令となり、養蚕や教育に力を注ぎました。明治14年に妻の寿が病死した後、明治16年、禁門の変で死去した久坂玄瑞の妻で吉田松陰や寿の妹であった美和子（文）と再婚をします。明治17年に群馬県令を辞めた後も元老院議員や貴族院議員などを歴任し、明治26年に防府へ移り、晩年を過ごしました。



▲ドラマの中で、吉田松陰と梶取素彦を最初に結びつけた禁書『海防憶測』



▲高森本陣跡（周東町）

### いわくにちようこかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎0452  
休館日：月曜（祝日の場合はその翌日）

## 岩国市 人口・世帯

人口 141,636 人【前月比 -60人】 男性 67,073 人 女性 74,563 人

世帯 66,642 世帯【前月比 -12世帯】 ※外国人人口を含む（平成27年1月1日現在）

交通事故発生件数 12月分事故件数 68件(544件) 死者数 3人(10人) 傷者数 88人(650人)  
※高速道路発生分を除く ※（ ）内は平成26年累計

広報テレホン 休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。テレホンサービス ☎231234

目の不自由な人へ 「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、秘書広報課広報班へ ☎295016 FAX213337